

I 調査研究の目的

特別支援学級担任や通級指導教室担当になって1～3年目の教員を主な対象として、令和4・5年度センター実施の実態調査(以下、令和4・5年度実態調査とする)で明らかになった担任・担当者の疑問や悩み、課題、困難を基に、自立活動を指導する上での基礎的、基本的な内容で構成したQ&A形式のハンドブック(以下、Q&Aハンドブックとする)を作成することを目的とする。

II 調査研究の方法

- 手順1 令和4・5年度実態調査から特別支援学級担任や通級指導教室担当の自立活動に関する疑問や悩み、課題、困難を集約し、Qを作成する。
- 手順2-1 Qに対するAを、学習指導要領や文献、専門雑誌等を参考に作成する。
- 手順2-2 作成したQ&Aを順次ホームページで試案(以下、Q&A【試案】とする)として公開し、特別支援学級担任や通級指導教室担当者に提供する。
- 手順2-3 Q&A【試案】に対する感想や改善案を、Googleフォームや特別支援教育関連の研修の中で収集する。
- 手順3 収集した感想や改善案、大分大学准教授からの指導助言を基に、Q&Aを修正し、仕上げる。

III 調査研究の結果

1 Q(疑問)の作成 令和4・5年度実態調査から特別支援学級担任や通級指導教室担当の自立活動に関する疑問や悩み、課題、困難を集約し、Qを作成した。

(例)【令和4・5年度実態調査の自由記述】

- ・個々の課題や困難さを把握することはできるものの、それをどのように指導するのか判然としません。
- ・指導の具体例がたくさんあると参考にしやすいです。具体的な実践例が知りたいです。
- ・1時間の授業の中をどう組み立てるのか、自信がありません。

【作成したQ(疑問)】個々の課題や困難を把握できても、どのように指導するのか、授業をどう組み立てるのか分かりません。

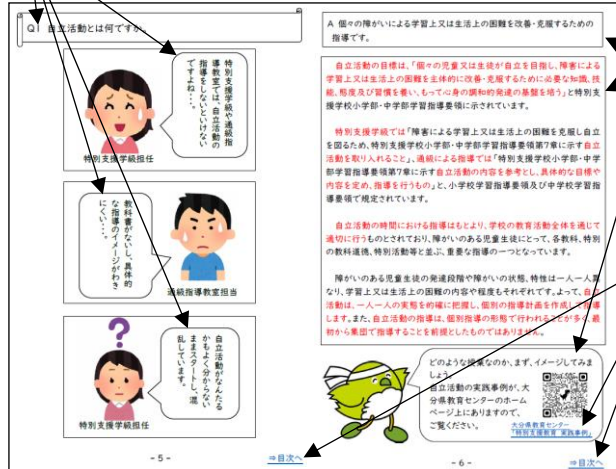
2 Q&A【試案】のホームページでの公開と収集した感想

2-1 ホームページへのアクセス数 9月27日にQ1～Q5を公開し、以降10月下旬にかけてQ29まで順次公開した。10月には284件のアクセスを記録するなど、多くのアクセスをいただいた。

2-2 収集した感想 20名よりアンケートに回答があった。概ね肯定的な感想が多かった。ICTを活用した実践や教育課程上の授業時数の位置づけ等について要望があったため、Q&Aハンドブックの加筆修正を行った。

3 作成したQ&Aハンドブックの特徴

- ①対象は、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室を担当・担当して1～3年目の教員を想定。
- ②内容は基礎的、基本的なものとし、短時間でも読めるように簡潔に記述。
- ③読みやすいように、表紙ページから両面印刷すると、Q&Aを見開きで読むことができる。
- ④Q(疑問)は、令和4・5年度実態調査の回答や特別支援教育関係の研修の受講者の生の声を基に作成。



⑤A(回答)は、「1文にまとめたもの」と、「解説」、「まとめや補足」の3つで構成。回答の核心を「1文にまとめたもの」で表わし、「解説」は簡潔に、さらに要点を赤字で表記。

⑥タブレット端末やパソコン等にダウンロードして閲覧する場合、インターネットに接続された環境であれば、タップやクリックで該当ページやサイトに飛ぶことができるように、文字にリンクを張った。

IV 成果と課題

Q&Aハンドブックの作成を通して、自立活動における流れ図を参考にした目標・内容の設定、授業の構想、評価等に関して、基本的な考え方や具体的な手順等を整理できた。また、試案としてホームページに公開したことで、いち早く特別支援学級担任や通級指導教室担当に情報を提供できた。そして、寄せられたアンケートの感想等を基に、ブラッシュアップしたQ&Aハンドブックにすることができた。課題としては、今後、本センターの研修でQ&Aハンドブックを活用すること、また、学習指導要領の改訂や法令の改正、時代の変化等に合わせ内容を適宜修正していくことである。